

《品川歴史館から浜川砲台跡へ》

今時には少し暑い気温の日々が続く中、少し陽射しが少ない1日、東京の大森界隈を巡りました。JR 大森駅から品川区立品川歴史館、来迎院、光福寺、大井の水神、鈴ヶ森刑場跡、浜川砲台跡まで。横田巖先生のご案内でした。　　＜実施日　平成30年6月5日（火）、参加者18名でした。＞



《品川歴史館、庭園にある茶室「松滴庵」》

昭和2～3年頃ここに居住していた安田財閥の安田善助氏が邸宅内に六窓庵（現在の東京国立博物館内の茶室）を手本にして建てた茶室の由、松滴庵では高橋是清、根津嘉一郎など戦前の政財界の著名人を招いて茶会が開催されたとのこと。昭和60年の品川歴史館の開設にあたり、歴史的に貴重な茶室をそのままの形で残したとのこと。現在も利用されている。



《歴史館内展示室で》

館内の資料展示室では、歴史館の学芸員の方が、興味深い事柄を、約1時間、展示物を見て回りながら、詳しく解説してくださいました。



《鹿島山・来迎院》

大井6丁目にある天台宗に寺院。平安時代の中期、安和2年（969年）の建立されたとされる。江戸時代には桜の名所として知られ、「鹿島の要桜（かなめざくら）」や「楊貴妃桜」と名づけられた名木があったと伝えられています。本堂の裏には、亭々と聳える松の大木がありました。

大井・大森付近は「品川筋」呼ばれる將軍の御鷹場で、しばしば鷹狩りが行われ、3代將軍徳川家光の時に、鷹狩りの際の休息所（大井御殿）がこの寺に設けられたため、「お茶屋寺」とも呼ばれた由。



《光福寺・境内のイチヨウの大木》

樹齢数百年の大木には乳根という太い垂れ乳のようなものが下がっています。三浦の三崎にある海南神社でも見たことがあります。気根であるという説もありますが、実のところまだよくわかっていないそうです。



《大井の湧水》

品川区の地域の多くは、江戸時代には純農村であったが、目黒川、立会川流域の一部を除くと多くが丘陵性の台地のため、水利に恵まれなかった。その中で丘陵の崖地などに湧く自然の湧水は貴重な水源だった。そのため「大井の水神」などのように「神」として祀られているものが多い。



《鈴ヶ森刑場跡》

鈴ヶ森の名は、大井村の隣にあった鈴森八幡宮に由来している由。小塚原（現荒川区）とならぶ江戸の処刑場で慶安4年（1651年）に開設された。東海道に面しており、間口40間（約74メートル）奥行8間（約16.2メートル）の規模があった由。

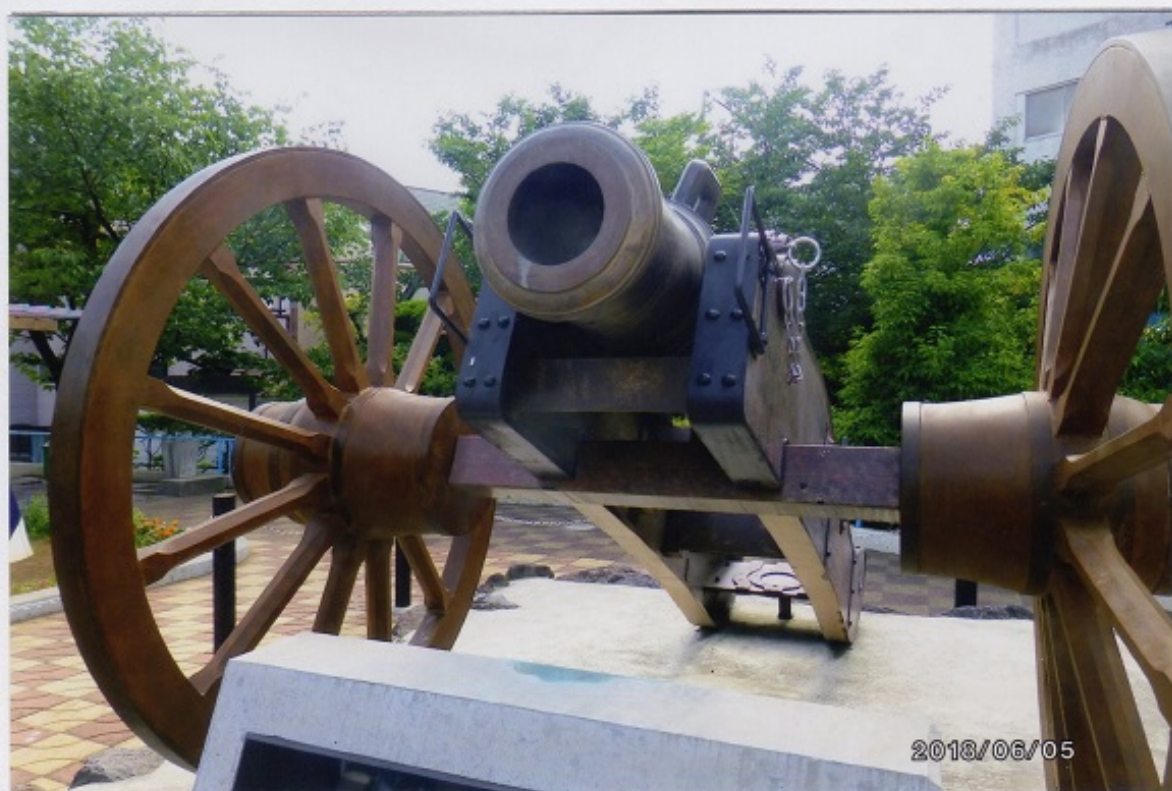
処刑に使用したといわれる台石、首洗いの井戸などが残されているほか、近代以降、様々な供養塔も建てられています。



《浜川砲台で》

京急・立会川駅から海岸付近へ出たところ。この辺りは高知藩山内家の下屋敷（1万6千8百坪）と鮫洲抱屋敷のあったところですこの河口に面した抱屋敷地続きの場所に嘉永6年（1853年）砲台が築造され「浜川砲台」と呼ばれたものです。

若き日の坂本龍馬が、警護のため土佐藩下屋敷からこの立会川河口まで往来していたとも云われています。



《復元された大砲》

2004年3月砲台の礎石が発見され、2015年11月、品川竜馬会や民意の力で砲台が完成した。実際は8門の大砲を備えていましたが、なかでも一番大きかった大砲（6貫目ホーイッスル砲）を再現したそうです。

（ お わ り ）